

令和7年度 青梅市立第一中学校 学校評価シート

<学校経営方針の重点> 1 学力の向上 2 社会性の育成 3 豊かな心の育成 4 その他（教育活動を支える重点）

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者 評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
1 学力の向上	生涯にわたって、学び続ける力を付けるために	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研究テーマ「主体的な学習の育成」</li> <li>● 学習の質を高める授業づくり</li> <li>● 主体的・対話的で深い学びの追究</li> </ul>	単元指導計画の充実（単元指導計画付略案を用いた授業観察）	A	充実した単元指導計画の作成は、各教科ともに進んでいる。主体的な学習活動の位置付けも意図的・計画的に進められている。	単元指導計画の充実による指導効果の検証を行うとともに、今後も適正な評価を実施していかなければならない。	A	生徒の主体性を大切にしたい。これからの授業づくりがされていることがよい。これからの生徒の実態に応じたきめ細かい指導により、学ぶ楽しさを味わわせてほしい。学力向上については、変容を数値で示せるとよい。学び方の指導や特別支援教育の視点を取り入れるなど、常に授業改善が求められると考える。ICT機器の有効な活用方法と併せて、引き続き研究に努めてほしい。	令和8年度は、青梅市教育研究指定校2年次となる。研究推進委員会を中心に、理論構築や実践授業、検証を進め、全教職員が同じ認識のもとで、生徒の主体性を育ていけるようにしたい。手だての柱として、教科の特性に応じた「学習方略」を提示できるようにする。
			授業の基本的な構成の見直しと開発	A	生徒自身に合った学び方の選択など、授業スタイルの見直しに取り組むことができたが充分とは言えない。	家庭学習においてオンライン講義動画を活用し、授業における知識の注入時間を短縮することで生徒が主体性を発揮できる活動を取り入れる。			
			主体的な取組を引き出す課題の設定と発問、学習方略の工夫	B	教師主導から生徒が主体の授業への転換が進んでいるが、課題の設定段階で生徒の興味・関心を十分に引き出せていない場面も見受けられる。	興味・関心を引き出せるような課題設定を行う。探究の時間の位置付けを校内研修会で模索し、研究授業で検証する。			
			聞き取る力、話す力の育成	B	言葉の力を中核とした学校づくりを推進している。朝礼等の聞き取りメモの取組により、話の展開に注意して聞こうとする姿勢が育っている。	朝礼等の聞き取りメモの取組を継続し、引き続き聞き取る力の育成を図る。話す力もノー原稿の取組を継続する。			
			ICTの効果的な活用と視覚化の工夫	B	どの教科も積極的に活用できている。情報モラル教育も計画的に実施できた。指導効果の検証に課題が残った。	活用が進んだ反面、内容や活動に合わせ、取捨選択ができるよう今後も研修を深めていく。オンライン講義動画のより一層の活用を図る。			
2 社会性の育成	生徒が安心して学校に通い、自己有用感を高めるために「振る舞い輝く！一中生」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 励まされる人間関係の構築</li> <li>● マナーをはじめとした常識・良識の育成</li> <li>● 人権尊重教育の推進</li> </ul>	生徒会活動・学校行事等の充実	A	一中の特色の一つとして、スローガンのもと生徒主体での生徒会活動の運営ができています。学校行事もねらいを明確に実施できた。	学校行事のねらいを教職員だけでなく、全ての生徒が十分に理解できるようにしなければならない。行事を通して、生徒の変容を図っていく。	A	生徒発案のボランティア活動ができたことは大変素晴らしい。生徒会活動やボランティア活動等は、生徒の社会性の育成につながっている。一中の特色であり、生徒が主体的に参加している様子が見られる。情報モラル教育は、家庭の協力がないと難しいため、家庭との連携を強化してほしい。いじめは隠れてされるため生徒の様子の違いを感じ取り、早期発見に努めてほしい。	「青梅一中ボランティア・マイスター制度」を継続・浸透させ、より一層ボランティア活動の活性化を図っていく。「SNS一中ルール」や「いじめゼロ」も最新の事例を取り入れ、見直しを図っていく。安心して通うことができる学校づくりのため、いじめ問題にはチームで即時対応する。
			持続可能なボランティア活動の推進	A	参加する生徒が半数を超え、昨年度よりも活動が活発になっている。反面、一度も参加しない生徒もおり、更に裾野を広げる取組が必要である。	ボランティアに参加するきっかけづくりとして、「青梅一中ボランティア・マイスター制度」を継続する。			
			情報モラルの育成	B	継続的に指導している成果として、SNSを介したトラブルは減っている。しかし、感情に流され、一時的に正しい判断ができない場面もある。	家庭との連携・協力が今まで以上に必要である。学校として、情報モラル・リテラシー教育を計画的に実施していく。			
			いじめ対策委員会及び生徒支援部を基軸とした組織的で迅速かつ適切ないじめ・不登校対応の推進	A	いじめ対策委員会及び特別支援部会において生徒の情報共有を行い、迅速な対応ができていますが、いじめゼロは達成できていない。	今後も生徒の小さな変化を見逃さず、早期発見、迅速な対応に努める。また、学年フロアの見守りなどチームで行っていることを継続する。			
3 豊かな心の育成	広い視野と感性・想像力を高めるために	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多様な心を育む</li> <li>● 「言葉の力」を中核とした教育活動の推進</li> </ul>	特別支援教育の充実	A	体育以外の教科でも共同学習を実施できた。委員会活動にも、特別支援学級の生徒が参加する体制を整えている。	通常の学級と特別支援学級の担任間の連携を一層強め、生徒のニーズに応じた教育活動を展開できるようにしていかなければならない。	A	道徳教育については、地域の大人も道徳的な言動を意識していかなければならないと感じている。道徳については、朝読書の取組は興味幅が広がることを期待できる。継続実施をお願いしたい。「振る舞い輝く！一中生」のスローガンが根付いている。今後も安心して過ごせる学校づくりを推進してほしい。	令和8年度も特別支援教育の研修を実施する。道徳については、道徳授業地区公開講座の在り方を見直し、地域の方と共に生徒の道徳性を養う取組を一層充実させる。朝読書は、推薦図書を活用することで質を高める。
			道徳教育の充実	A	学年の教員がローテーションで授業を行う仕組みが構築されている。道徳授業地区公開講座における意見交換会の参加率に課題が残った。	意見交換会の実施方法や時期を見直し、保護者の方や地域の方と共に道徳教育について考えていけるようにする。			
			朝読書の充実	A	取組の姿勢に生徒間で差がありつつも、朝読書は定着してきている。	図書委員会を中心に、朝読書を行う根拠や目的を改めて確認し、理解を促す活動を行うことでより充実させる。			
			「3ない運動」×SDGs（青一ver.）生徒会活動の昇華	A	各委員会は、スローガンに即した活動ができている。自分たちでよりよい学校生活を創り出そうという意識が育っている。	ボランティアをはじめ、今の活動を充実させながら、質を高めていく。「みんなが安心して過ごすために」といった認識をもたせる。			
4 その他	安心して通わせることができる学校づくりのために	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一校一地域の堅持</li> <li>● 働き方改革の推進</li> </ul>	持続可能なPTA活動及び地域との信頼関係の構築	A	保護者や地域とのつながりを大切し、連携できている。保護者の方や地域の方の御協力に感謝している。	PTAの方も教職員もお互いに持続可能という視点から活動を見直していく必要がある。	A	地域が生徒の成長に与える影響は大きいと感じている。地域に貢献できるよりよい社会人の育成をこれからも共に考えていけるとよい。働き方改革は長時間労働が心配されるため、実行策が講じられてよかった。	ボランティア活動の推進などを軸に、今後もPTAや地域と持続可能で密接なつながりを保っていく。働き方改革では、その人に合った働き方を互いに応援できる風土づくりを進める。
			教職員のライフワークバランスを意識した働き方改革の推進	B	在籍時間削減プランを活用することで、仕事内容や時間の使い方を見直すことができた。しかし、個人の意識の差は大きい。	仕事内容の精選をしていかなければならないが、生徒はもちろん、保護者の方や地域の方の理解を得る必要がある。			
			研修（研究と修養）の充実	A	研究推進委員会が核となり、生徒の主体性の育成が図られた。構築した手だての共有化が課題であった。	青梅市教育委員会研究指定校2年次の本発表に向けて全教職員が共通の手だてを講じ、一丸となる必要がある。			

